

第2回 長野県新型インフルエンザ等対策懇談会

日時 令和6年11月18日（月）

17:30～19:00

場所 県庁西庁舎1階 112号会議室

1 出席者

構成員 飯塚康彦（医師会副会長）、本田孝行（県立病院機構理事長）、山崎善隆（信州医療センター副院長兼感染症センター長）、松本清美（看護協会会長）、梶田能孝（経営者協会総務部次長）、井出康弘（中小企業団体中央会専務理事）、徳武高久（商工会議所連合会専務理事）、中村正人（商工会連合会専務理事）、小松豊（日本労働組合総連合会長野県連合会事務局長）、花岡利夫（市長会長）、北澤良和（町村会事務局次長）

長野県 前沢危機管理部長、小野消防課長、中田副参事兼課長補佐、塚原感染症対策課長

2 内 容

（1）長野県新型インフルエンザ等対策行動計画改定案について …資料1～3

【資料1～3】を説明。構成員からの主な意見は以下のとおり。

- （飯塚構成員）・専門家懇談会を振り返って悩んだ点として、都道府県間の移動自粛要請を行うという文言。県外ナンバーを付けていると冷たい目で見られたということもあったので、もう少し表現を変えていくか、対策を考えた方がよかったと感じている。
- ・緊急事態措置やまん延防止等重点措置の実施にあたり、職を失った方や、新しい仕事が見つからない方がいたというところまで思いが及ばなかったと反省している。行動計画に入れることはできないかもしれないが、そういう思いを持っておきたい。
- （花岡構成員）・予算や人事に関しては、地域振興局長の方が慣れているので、保健所長と地域振興局長との連携体制を、県ではもう少し考えていただければありがたい。
- （山崎構成員）・対応期で特措法によらない基本的な感染症対策に移行するという記載はまさにこの書き方でよいと思う。コロナ第6～8波の際は、病原性がかなり弱くなり、病態の変化が明らかになってきていたが、2類を維持していた。その中で、発生届を簡略化することで多くの患者さんに対応できた。
- （松本構成員）・計画の分量が多いので、市町村等関係者が内容をしっかりと理解していくことに力を入れていただきたい。
- ・平時の保健所の役割について、コロナのとき小中高校とは十分連携がとれたが、大学は多くの人が集まるが、なかなか情報伝達が徹底されなかった。また産業分野からも多くの相談が寄せられた。平時から、どのように保健所の情報を伝え、相手が相談できる体制を築くのか工夫して準備していただけるとよいと思った。
- ・今年度福祉施設への感染管理認定看護師の派遣を行った場合の公費支援が終了になる。支援が終了すると、どうしても施設は研修を行わなくなってしまうので、予算化を続けていくか、研修を実施したかの確認を行うなど、平時に学習を続け

ていく体制が大事。

(梶田構成員)・いざとなったときに有効に活用できるよう、本会としてもすべきことを考えていく必要がある。

(井出構成員)・現在、企業の皆さんがコロナの経験を踏まえて BCP を策定しているところ。社会経済活動が止まらないようにするには具体的にどんな動きが必要か計画にこだわらずわかりやすく示していただきたい。

(徳武構成員)・影響を受けた事業者を支援するために必要な財政上の措置を講ずるというのは、その通りだと思う。コロナのとき会員の事業者から何か補助金はないか、アクリル板はどうなっているかといろんなことを聞かれた。窓口は産業労働部だが、その他の感染対策は健康福祉部や危機管理部だと思うので、できればワンストップで聞ける体制を作ってもらえるとよい。

(中村構成員)・医療や保健の分野は経験則が積み重なり細かい記述だが、経済活動の分野は若干薄いのではないか。一旦経済活動を止めると、復活がなかなか難しい。計画に記述するのか、BCP 等の方に委ねてそれぞれが書き込んでいくのか、どちらがいいかわからないが、もう少し厚くした方が良いと思う。

・財政措置について公平性の観点悩ましい。支援内容等が地域で異なっていたので統一できると望ましい。

・雇用への影響に関する支援について、総論的には記載の通りでよいと思うが、どのように具体的な支援に繋げていくのか非常に悩ましいところ。

(小松構成員)・県民に対して準備期はマスク等の備蓄、初動期は円滑な提供、対応期は買占めしないようにとフェーズごとにお問い合わせの内容が変わっていく。そのことをどのように伝えていくのが大変だと思うので、ここにいる経済団体や労働団体を、広く県民に伝える情報のインフラとして使っていただければ。

・コロナでは多くの企業の経営が厳しく解雇も発生した。未来基金など連携して就労支援の動きを取らせていただいたが、そのような枠組みがすぐに作れない場合もあるので、県と労働局でうまく連携して支援いただければ。

(北澤構成員)・県と町村が動きを同一にできるように DX の推進を平時から進めていただき、情報を瞬時に共有できるようになればよい。

(2) その他

今後のスケジュールを説明。